

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選

その56

文：岩橋 義平

極入「お聖天様」のご利益

極入にある「お聖天様」は古くから会津三大観喜天の1つといわれ、多くの参詣者がありました。歓喜天社は、『耶麻郡誌』によると徳一大師が建てたと伝える金蔵寺に付属する建物で、寺院が荒廃した後もこの建物は残り伝えられてきたものと言われます。

歓喜天像は「河沼郡高寺より移せり」（『耶麻郡誌』より）とも伝えられます。「歓喜天」は頭が象、身体が人間からなる2体が抱き合うもので、大きな石製の容器に収められています。秘仏とされ、村の人たち誰もが目にした人はいません。

その靈験は、火盗の両難を防ぎ、商売・芸芸の成功、訴訟など勝負事の勝利、夫婦・良縁を結びあうなどさまざまなご利益があると言われてきました。かつての戦争中には、参詣すれば「徴兵を免れる」「戦死を免れる」などとも言われ、会津近郷はもとより新潟県などからも大勢の兵士や家族が参詣に訪れたといえます。このため「お聖天様は徴兵逃れの神だ」と曲解され、憲兵が取り締まりに来たなどの話も伝わっています。このように、その靈験は全てにわたり7代までの福を一代で取るといわれ、極めて強く、そのため「御礼参りは欠かしてはならない」とも伝えていきます。出兵した息子の無事な帰りを熱心に願った母親が、願いが叶い、喜びのあまりお礼参りを忘れたがためにその後まもなく不幸が襲ったとの話も伝えられています。

お堂の中には、手芸品や絵馬などの奉納品があり、中でも「杢人（木こり）に襲われる女性を虎が救おうとしている」（別説あり）という絵馬は町指定文化財のひとつとなっています。見事な彫刻が施されたお堂自体もまた荘厳さや格調高さを感じることができます。



極入のお聖天様（歓喜天社）



金蔵寺歓喜天社絵馬



歓喜天を収めている石製容器

今月の表紙

今月は、第36回西会津ふるさとまつりの桐ゲタ投げ全国大会より。出場者の皆さんは、桐ゲタの大きさや重さに四苦八苦しながら、好記録を目指して精いっぱい桐ゲタを投げていました。福島レッドホープスの選手の皆さんもゲストとして参加し、大会を盛り上げました。

（2ページから関連記事）

編集後記

広報紙担当になって初めて
のふるさとまつり。2日間に
わたり、会場をまわらせて
いただきました。町民限定とは
いえ、会場を訪れる人の多さ
にびっくり！子どもからお年
寄りまで、にぎやかで楽しそ
うな声が溢れていました。

今回のふるさとまつりは、
コロナ禍であっても感染症対
策を行うことで、以前のよう
なイベントによるにぎわいが
取り戻せる可能性を感じた2
日間でした。（秦）